

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	元吉田支援教室		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 1日		～ R8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	R8年 2月 1日		～ R8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様一人ひとりの特性や状況に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせながら柔軟に支援できる体制があることです。	同じ活動でも子どもの理解度や発達段階に合わせて工程や関わり方を変えるなど、一人ひとりに合った支援を意識して行っています。	職員間でお子様の様子や支援方法について情報共有を行い、より個々に合った支援につながるよう取り組んでいます。
2	職員同士のコミュニケーションが取りやすく、気づいたことを共有しながら支援につなげることができる環境があることです。	教室ミーティングや日々の会話、LINEなどを活用し、お子様の様子や支援のポイントについて職員間で共有しています。	支援の振り返りやミーティングの時間を確保し、よりスムーズな情報共有と支援の質の向上につなげていきます。
3	保護者との関係づくりを大切にしており、日々の様子を共有しながら信頼関係を築けていることです。	送迎時の会話やLINE、面談の機会を通して保護者と情報共有を行い、お子様の様子や課題について共通理解を持てるようにしています。	今後も保護者との情報共有を大切にしながら、必要に応じて相談や支援につながる機会を設けていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援前後のミーティングや振り返りの時間が十分に確保できない場合があること。	送迎時間や日々の業務の関係で、職員が全員集まる時間を確保することが難しい場合があります。	支援内容や注意点について事前に共有する仕組みを整えるとともに、ミーティングの時間を確保し、職員間で情報共有や振り返りを行えるようにしていきます。
2	地域との交流や他機関との交流の機会が多くないこと。	活動時間や利用人数、安全面への配慮などから、交流の機会を設けることが難しい場合があります	公共施設の利用や地域行事への参加などを通して、地域の子どもたちと関わる機会を少しずつ増やしていくことを検討しています。
3	当日の活動記録とは別に日々の支援の記録を残せていない場合があること。	日々の業務の中で記録をまとめる時間が取りにくいことがあります。	支援の合間に気が付いたことを、支援に支障がない範囲でモニタリング用紙や記録用紙を活用し箇条書きで記録。後から内容をまとめて支援記録として残します。記録を活用しながら支援の振り返りを行い、支援の改善につなげていきます。